

企業や地域との協働による市民ウォーキング普及活動

- ◆提案団体：NPO 法人北九州ウォーキング協会
- ◆担当部署：保健福祉局健康推進課
- ◆提案型：環境未来都市推進支援事業（補助金）
- ◆事業年度：平成27年度



提案団体の概要

NPO 法人北九州ウォーキング協会は 51 年の歴史があり、平成 24 年 7 月から NPO 法人となり、「生活習慣病の予防」「健康寿命の延伸」「子供の歩育推進」をウォーキング普及で推進している。

毎月第 1 日曜に一般参加可能な例会を開催、企業、団体のウォーキング大会を企画・運営、第 44 回西日本 100 キロビックハイク開催、第 9 回北九州無法松ツーデーマーチの開催等、年間約 20 回のウォーキング大会を企画運営しウォーキング普及活動を行ってきた。H27 のウォーキング参加者は約 14,700 人。

事業の目的と概要

本市では、他の政令市を上回るペースで進行する少子高齢化により、医療・介護費の増大が問題となっている。医療・介護保険制度を持続可能なものにするためには、働く世代から健康づくりに関心を持ち、定期的な運動や特定健診の受診等に取り組む必要がある。

- 市が推進する健康マイレージ事業と連携し、40 歳以上の層へウォーキングをきっかけとした予防医療を推進する。ウォーキング初心者が参加しやすい教室なども開催し、参加者の拡大を図る。
- 北九州市健康づくり推進員の会と連携し、ウォーキングに関する情報交換、指導員の派遣、大会運営協力等に取り組む。

役割分担

■ 行政の主な役割

北九州市には、より多くの市民に参加いただくための活動の場を広げるため、北九州市健康づくり推進員の会との連携調整をお願いしたい。また、企業訪問にも同行いただき、健康マイレージ事業について説明して頂く。

■ 団体の主な役割

NPO 法人北九州ウォーキング協会はウォーキング大会運営やウォーキング教室開催などの実績を数多く持っている。さらに、北九州無法松ツーデーマーチの開催を通じて、企業訪問を 9 年間続けており、市内 150 企業とのネットワークを持っている。

事業費とその主な内容

- 事業費 1,214,032 円（うち補助金額 900,000 円）
報償費、旅費・交通費 委託費 消耗品材料費 印刷製本費 使用料 通信運搬費

協働による成果

ウォーキングネットワーク加入の企業 60 社に、NPO 法人北九州ウォーキング協会他年間 20 大会のチラシを送付し参加を呼びかけた。

また、健康推進課と企業を訪問し、健康マイレージ事業の説明を行い、関心を高めて頂いた。

■ ウォーキング参加者

目標 15,000 人/20 大会に対して、14771 人/18 大会となり、ほぼ目的を達成した。特に、バーベキュー、そうめん流しほかイベントを行った大会は一般参加者が多くなった。

■ ウォーキングネットワーク

目標は 100 社だったが、60 社となった。ただし、協力企業窓口から 170 社へ発信して頂いており、実質は 100 社を超えている。



担当課の声（反省点・苦労した点）

- 企業訪問にも同行し健康マイレージ事業等の PR を図ったが、企業は独自で健康づくりを進めているところも多く、反応のない企業も多かった。健康づくり推進員の会は既に独自にウォーキングを行っている会員も多く、連携は難しかった。

提案団体の声（反省点・苦労した点）

- ウォーキングネットワーク チラシ送付に対し、反応の無い企業もあり、今後も内容を工夫して興味を持っていただくチラシ発信を続ける。北九州市健康づくり推進員の会との連携は実現できなかった。

北九州 箏授業支援プロジェクト

- ◆提案団体：NPO 法人和楽啓明
- ◆担当部署：北九州市教育委員会指導第一課
- ◆提案型：環境未来都市推進支援事業（補助金）
- ◆事業年度：平成27年度



提案団体の概要

広く一般市民に対して、和楽器の普及および育成継承に関する事業を行い、文化芸術の発展に寄与することを目的とする。

①演奏会、講演会、ワークショップなどの開催事業 ②演奏、講演、ワークショップなどの受託事業 ③次世代への継承、育成事業 ④学校教育に関連する事業 が主な事業。

事業の目的と概要

学校教育において箏は和楽器の中でも比較的採用されやすく、H27年度は市内全62中学校中55校が箏の授業を実施することが明らかになった。（H27.4月教育委員会調査）

しかし、楽器環境が整っていないこと、授業前の調弦や授業中の指導補助を行う人手不足が課題となっていた。教師の負担を軽減し、以前よりも質の高い箏の授業を生徒に提供することを目的とし、以下の事業を行った。

[楽器整備事業]

- ・あまり活用されていない楽器の回収、整備
楽器不足校と余剰校があり不均衡な状態であるので、余剰校から合計41面箏を回収。不足校に貸し出すために、楽器店が合計28面糸替えを行った。
- ・箏保管、メンテナンス、運搬
楽器店が6月～3月まで保管し、各学校が必要な時に楽器店が運搬した。
消耗により、年度中に合計6面糸締めを行った。

[箏授業支援員派遣事業]

- ・学校の箏の授業の際、支援員を1校につき3名派遣
- ・授業前の設置、調弦、授業中の指導補助、手法実演、模範演奏などを行った。
（準備1時間+授業3時間を基本とし、追加時間は学校が経費を負担）

役割分担

■ 行政の主な役割

- ・専門的助言、情報提供 ・H27年度和楽器の実技指導についての実態調査
- ・楽器回収校と面数の決定、支援員派遣校募集、関係機関の連絡調整 ・広報資料の校閲等

■ 団体の主な役割

- ・現場教師の要望を取り入れて、効率的なシステムを提案 ・企画の実行、効果検証
- ・楽器店との交渉 支援員派遣の調整等

事業費とその主な内容

■ 事業費 1,262,865 円（うち補助金額 900,000 円）

人件費（支援員アルバイト代）、交通費（支援時、箏回収時）、委託費（箏整備、保管、DVD 作成）、消耗品費（インク、用紙、箏爪他）、印刷費（成果発信チラシ、広告）、通信運搬費（箏運搬、保険他）

協働による成果

本事業で合計 23 校が関わり、2966 人の生徒が箏の実技指導を受けることができた。

教師の負担を軽減することで教師は教材研究や授業指導案に時間を多く注ぐことができ、授業の質を高めることができた。

授業を受けた生徒達は、和楽器や伝統音楽への興味関心が高まった。全く興味関心のなかった生徒も、たった 1 時間の授業で明らかに変化している。「衝撃を受けた」「かつこいい」「自分もあのようにになりたい」など素朴な感想を述べている。音楽教師に対する見方も変化し、箏を弾けることに尊敬の念を抱いた生徒もいた。

支援する立場である弊社団体にとっては、各学校教師の様々な方法による授業展開が大変参考になった。新たな指導方法や効果的な支援方法を学校教師と共に探究することができた。

弊社団体はこれまで 5 年間当課題に取り組んできた。箏の講習会を実施して現場の先生方と接する中で、授業実施の課題が明らかになり、解決のための施策を立ててきた。楽器運搬、授業支援員派遣案は当初、実現不可能と思われていたことが、実現に向けて一步一步進んできた。これはまさに現場の先生方、教育委員会との協働による成果である。さらに、事業名に「北九州」と付けて北九州独自の取り組みを発信し、北九州の知名度を上げることに貢献した。



担当課の声（反省点・苦労した点）

- 「準備 1 時間＋授業 3 時間を基本とし、追加時間は学校が経費を負担」としていたため、学級数が 4 クラス以上の学校については、学校側に経費の負担がかかることとなった。各学校、学級数×1 時間の予算を確保しなければ、学級数の多い学校についての活用が難しい。

提案団体の声（反省点・苦労した点）

- 予算都合上、クラス数の多い学校は支援員が入る時間を 1 日にまとめたため、時間割編成等で教師や学校に負担をかけた。今回は箏だけを貸出運搬したが、箏の爪や付属品（立奏台、譜面台等）も全体的に不足していた。

外遊び環境づくりを通した 子どもが育つ関係づくり事業

- ◆提案団体：北九州子どもの遊びと生活体験ネット
- ◆担当部署：子ども家庭局青少年課
- ◆提案型：環境未来都市推進支援事業（補助金）
- ◆事業年度：平成27年度



提案団体の概要

私たちは共に、乳幼児期から児童期までの子どもたちの遊びや生活体験の現状に強い危機感を持ち、その課題を解決すべく北九州子どもの遊びと生活体験ネット（協議体）を設立した。構成団体は、小学生の体験活動の企画運営を行う特定非営利活動法人KID's work、北九州市立大学で乳幼児のプレイパーク等を運営するNPO法人北九州子育て・親育ちエンパワメントセンターBee、小倉北区霧丘小校区でプレイパークを行うKISH（任意団体）の3団体である。

事業の目的と概要

子どもたちに充実した「外遊び」の機会を保障する活動を通して、社会が子どもを育てる意識を育み、子どもがよりよく育つ社会づくりを目指すことを目的とする。

これは本年度、北九州市の掲げる元気発進！子どもプラン（第2次計画）にも「外遊び（プレイパーク）の検討」として、行政施策にも挙げられている。

本事業において、私たちは、子どもの外遊びの機会を提供するため

- ①「プレイパーク」を実施。
- ②プレイパーク運営に欠かせないプレイリーダーの募集・育成。
- ③プレイパークの認知度を上げるため、普及、啓発活動。

以上の事業を行う。

役割分担

■行政の主な役割

- ・ボランティアステーション・ユースステーション等青少年課の関係する施設の学生メンバーに対する参加募集
- ・プレイパーク実施場所の使用許可を得るための交渉
- ・プレイパーク実施のための広報
- ・本市での実現可能性の検討（実施のための課題抽出）

■団体の主な役割

構成団体KISH、Bee、KID's workはそれぞれ、子どもや乳幼児を対象とした「プレイパーク」や「体験活動」を子どもを対象とした外遊びや野外活動に関して事業実績を有する団体であり、専門性は高い。また、3団体とも行政や他団体との協働の経験も豊富である。

各団体の役割、

- ・講座は、理論編をKISH、Beeが担い、実践編をKID's workが担う
- ・プレイパークの運営、報告会は4者（団体・行政）が協働して行う
- ・事業管理機能として、KISHが 地域との連絡調整、Beeは 大学との連絡調整を行う。
- ・KID's workは、行政との連絡調整、事務局機能を担う

事業費とその主な内容

■事業費 651,418円（うち補助金額 500,000円）

報償費（プレイワーカー・コメンテーター謝金）、人件費（アルバイト代）、委託費（ポスター・映像撮影代）、消耗品費（文具等）、印刷製本費（チラシ印刷）等

協働による成果

1. プレイパークの開催

- 成果：①小倉北区（平和公園）、小倉南区（堀越キャンプ場）と2つの地域で3回のプレイパークを実施、合計505名（スタッフ99名含）の参加があった。特にこれまで開催していなかった地域（小倉南区堀越キャンプ場：企救丘小校区）で学童保育からの募集を通じて、地域の子どもの多くの参加を得ることができた。
- ②バックヤードツアーを実施。市内外の子育て支援関係者10名の参加をいただいた。プレイパークに関心を持っている人たちに、運営のノウハウを伝えることで、実施に向けたきっかけづくりとなったと感じている。
- ③プレイパークの運営を3団体と行政がともに行い、経験を共有することを通じて、構成団体のスタッフがプレイパークの本質について学びなおすことができ、共通理解が進んだ。

2. プレイカーの派遣

- 成果：プレイカー派遣は、他都市でも（出張プレイパーク、おでかけプレイパークなどの事業名で）実施されているが、そのノウハウを整理することができた。地域の市民センター関係者の理解がある程度深まった。

3. コース講座

- 成果：見守るだけでなく、思わず遊びたくなる場づくりや雰囲気づくりなど、子どもとどう関わるのかを知り、実践することができた。

4. 協働報告会

- 成果：①3団体が協働しての事業を全体的に、ふりかえり、次のステップに向けて整理することができた。
- ②本事業の今日的な意味をしっかりと共有し、遊び・体験の大切さを感じているメンバーがつながることができた。

担当課の声（反省点・苦労した点）

■子どもが自由に遊びを作り出す「プレイパーク」を実際に地域で開催することで、広く市民にプレイパークの面白さや重要性を伝えることができた。今後、プレイパークを行いたい地域や団体のサポートや、プレイリーダーをはじめとする人材育成及びネットワークづくりが課題である。

提案団体の声（反省点・苦労した点）

■プレイパークの開催とリーダー育成、広報活動を実施したが、行政の事業化までには至らなかった。次年度の事業では、子ども時代における外遊びや体験活動の重要性について、理論的背景を関係者がしっかりと学び、外遊び（プレイパーク）や体験活動の推進に対して理論と実践を合わせ、より強い周知・発信をし、理解が深まるように持っていきたい。

スポーツ現場における危機管理能力の向上事業

- ◆提案団体：特定非営利活動法人北九州スポーツクラブACE
- ◆担当部署：市民文化スポーツ局スポーツ振興課
- ◆提案型：環境未来都市推進支援事業（補助金）
- ◆事業年度：平成27年度



提案団体の概要

スポーツ・健康づくりを楽しむことを原点に、「心身の健康を保つこと」「自分を表現すること」「競技力を高めること」など様々な目的を持つ人々が集う地域スポーツクラブを運営する。地域スポーツを楽しむことや競技スポーツ選手の育成・支援、質の高い指導や親睦・交流の場等を提供する。

事業の目的と概要

近年スポーツ現場においては、危機管理の必要な知識があれば予防でき、もし仮に事故が起こったとしてもその対応措置をしっかりとれば大きな事故にはならなかった事例も多く発生している。また、スポーツ現場では、自然現象による開催・中止・延期などへの明確な基準がなく、その判断は主催者や指導者にゆだねられることが多い。本事業では、『スポーツ現場における危機管理ガイドブック【気象・救急編】』を作成し、それをもとに講習会を計2回開催した。今後も継続的に開催して、スポーツ関係者・指導者の質の向上を目指し、ディザスタリカバリの考え方が広がることに加えて、市民が安全・安心にスポーツに取り組める環境づくりに努めたい。

■実行委員会

市(スポーツ振興課)との協議で「気象」と「命に関わる“救急”」に絞った内容にするし、実行委員会を組織した。

・日 時 7月31日(金)、11月10日(月)、3月16日(水)

■ガイドブック製作

実行委員会メンバーと個別に調整しながら、原稿作成や写真素材の選定、デザイン、仕様の検討を行い、ガイドブックを製作した。

・製作期間 8月～11月末

■講習会実施

製作したガイドブックをもとに、講習会を2回開催した。今回は、特に現場の指導者やクラブを運営する人たちを対象とした。

・日 時 12月6日(日)、3月6日(日)

役割分担

■行政の主な役割

行政の立場からの記載項目のアドバイス・希望箇所等の意見／各種情報提供／

市の危機管理マニュアル等との整合性の確認／ガイドブックの使用機会の創出 等

■団体の主な役割

スポーツ現場の意見・情報提供及び共有／各種専門機関へのネットワークを保持／ガイドブック作成に係る業務全般／講習会の講師手配等の企画・運営 等

事業費とその主な内容

■事業費 1,158,398円（うち補助金額 900,000円）

報償費（謝礼金等）、委託費（ガイドブック製作等）、消耗品費（色上質紙等）、印刷製本費（コピー代等）、通信運搬費（郵送代等）、管理運営費

協働による成果

- ・本事業では、市と協働し、お互いの要望や目指すところを共有しながら「スポーツ現場」の「危機管理能力」に重きをおいてガイドブックを製作し、講習会を開催した。講習会には、関心を持った多数の参加があり、「今まで全く気にしていなかった」などの声がかかれるなど、指導者・関係者の資質向上の一助となった。
- ・ガイドブック製作にあたり社会課題解決に取り組む中で、当法人としても現場レベルでの危機管理の必要性について再確認できた。
- ・今回の講習会では、「スポーツ」に携わる人たちへの対象となったため、幅広く市民へ広報は行わなかったが、当NPOの広報誌等での情報発信から問い合わせをいただき、事業の必要不可欠さを実施した。



担当課の声（反省点・苦労した点）

今回の事業では、「天気」という新しい視点からスポーツ現場における危機管理について協働事業を実施した。その中で、もっと多くの人に興味をもっていただき、講習に参加してもらった必要性を感じた。興味を持っていただくためには、ポイントを絞った講習会のあり方など、普及のための仕組みづくりが今後の課題として残る。また、関係団体等との調整ももっと円滑に行う必要を感じた。

提案団体の声（反省点・苦労した点）

約3カ月間という短期間でのガイドブックを製作したため、関係者との調整に苦労した。また事業の課題解決については、一朝一夕で成果となることは難しく、継続していくことが大切であることを痛感した。

Share! カードの活用による環境みらい学習システムの構築

- ◆提案団体：特定非営利活動法人里山を考える会
- ◆担当部署：環境局環境学習課
- ◆提案型：環境未来都市推進支援事業（補助金）
- ◆事業年度：平成26年度～27年度



提案団体の概要

一般市民に対して「里山的暮らしのデザイン」をテーマに社会システムの発展、環境教育及び人材育成に関する事業を行い、持続可能な社会及び生活環境作りに寄与することを目的とする。

平成21年～現在「環境ミュージアム」指定管理者、平成24年～現在「ココスマツアー」実施、平成24年～現在「東田サステイナブル国際会議」開催。

事業の目的と概要

これまでの環境学習施設での学習・イベントでは、参加者の「知識」の向上には効果があるが、それが実生活の中での「行動」に結びついていないという課題があった。

これに対して本事業では、環境学習施設での学習・イベントの参加者の行動をICカードを利用することでWEB上のIDと紐付をおこない、参加後に実生活での行動に繋がっているかを定量的に把握する。また、実生活での環境配慮行動に対してもポイント付与するウェブサイトを構築し、行動を誘発する仕組みづくりを行うことを目的とする。

✓ 学びを深める学習プログラム

- 北九州環境ミュージアムおよびいのちの旅博物館が主催する環境学習イベントにおいて学んだ後に行っている行動を把握し、持続的な活動となったかを以下のようにレベル設定することで、学習プログラムの有効性について評価する。

✓ ポイントカード（Share!カード）を活用した学習評価システム

- ポイントの評価基準となる環境評価指標の策定、調査・分析の実施
- 「学習診断カルテ」の作成
- 市民の環境配慮行動の持続性を確保するための「インセンティブ」の付与
- 企業の広告協賛による運営資金の確保

✓ 情報発信

- PRツール、ホームページやメールマガジン等を用いた市民への情報発信、広報

役割分担

- 行政の役割：市の施策に基づく環境学習プログラムへの提案、環境学習施設へ協力依頼、広報
- 団体の役割：同システムの企画運営

事業費とその主な内容

■ 事業費 1,415,912円（うち補助金額 900,000円）

学習診断ソフトウェア開発費、HP作成費、消耗品費、通信・運搬費、印刷・製本費、旅費・交通費

協働による成果

定期的な打ち合わせにより事業の方向性について常に共通認識を持ち取り組む事ができた。また、それぞれの強みを活かした役割分担をし、事業を実施した。

■ エコライフステージでのラリー・広報活動

2015年10月11日・12日で実施されたエコライフステージ2015にてShare!ポイントラリーを実施した。

同イベントは環境学習課が担当する環境イベント。2日間でおよそ300名の方にカードを配り、8ブースのうち、5ブース（10ポイント）を回った方にはエコグッズとの交換を実施した。

↓エコライフステージでの様子



■ 他施設への連携強化

東田地区内にある3館への協力依頼の際は、環境学習課にも同席頂いたことにより、他施設との連携がスムーズに行えた。

担当課の声（反省点・苦勞した点）

■ 事業計画の進捗管理及び変更

個人の行動をより細分化し分かりやすくするため、システムの充実化を図った。

システム開発については、団体と開発者間のことではあるが、担当課としては、団体との定期的な協議はしていたものの、開発業者を含めた協議には十分な時間を確保できなかったことから、一部、団体と開発業者主体で進めさせることとなり、進捗管理が不十分な面もあったといえる。

■ 事業内容の概要

個人の環境に対しての行動をポイントによりデータ化することで、これまでの景品を得るためだけのものから、学びを深め行動へと導くものとした。自分の日常における環境への行動と傾向が分かり、さらに環境行動に繋げるためのヒントも得ることができる。合わせて、環境に関するイベント情報（イベント参加についてもポイント付加）も発信し、ポイントを得る場を拡げることから、より多くの行動分析が可能とした。

平成27年度はその行動分析項目を増やし、より分かりやすいものを目指した。

提案団体の声（反省点・苦勞した点）

■ 本事業の仕組みづくり（参加者数）について

日常的には、ホームページやメールマガジン等を用いた市民への情報発信をベースに、個別には環境ミュージアム館内でのPR、環境学習サポーターによる展開、イベント（エコライフステージ、手作り市場 in 北九州）での告知と実証を行ったが、参加人数（絶対数；ユニーク数）は400人強と参加者の増加と参加者が参加しやすい仕組みづくりの構築が必要。

■ 今後の展開等について

上記のとおり課題・反省はあるものの、今回導入したカードの汎用性（交通・流通系プリペイドカードが使用可能）、システムが類似（同型）している市民サービス路の連携可能性を図る等の検討。一方で、参加しやすく判りやすい仕組み作りのための施策（例えば蓄積ポイントへの表彰等を含むリターン）や協力を頂ける協賛・協力企業探し等、2年間の本事業実証により課題が明確になった事から、検討のハードルは高く一定の検討期間を必要とするが、積極的に取り組みたいと考えている。

わくわく☆キラキラ 余暇サポート事業

- ◆提案団体：わくわく☆キラキラ応援隊
- ◆担当部署：保健福祉局障害福祉部障害者支援課
- ◆提案型：環境未来都市推進支援事業（補助金）
- ◆事業年度：平成27年度



提案団体の概要

ハンディキャップのある子どもを育てている母親が心身共に元気に日常生活や育児を行えるようサポートしていくことを目的として設立された団体である。

事業の目的と概要

障害児者と家族に不足している余暇支援の現状の解決に取り組む。具体的には、障害児者が休日や余暇の時間にレクリエーション活動を行う場が少ないこと、また中学生頃になると、活動場所の対象年齢に合わせて出かけると、内容が難しいなど行って楽しめる場所が減っていること、などの問題解決に向けて以下の事業を行った。その際に、北九州市の余暇活動支援連絡会にも参加し、余暇支援を考えている北九州市の他団体との連携も図り、「余暇支援の充実の必要性」について周知を図り、具体的な活動等の情報交換等を通して、内容の向上を促進した。

◆「余暇支援のためのボランティア養成講座」を開催

*入門編 9月23日（水）コムシティにて開催。参加者31名。

基礎講座・余暇支援団体の紹介とボランティア募集・ボランティア協会登録説明

*上級編 10月25日（日）コムシティにて開催。参加者14名。

障害者差別法について・ボランティア実践

◆中学生の余暇支援活動を企画・開催

*バランスボール講座 11月15日（日）親子でバランスボール講座・名札・バッグ作り

*音楽遊び「手作り楽器であそぼう」1月17日（日）

てづくり楽器づくり・カホン等を使ったリズム講座

*絵画・工作講座 2月21日（日）工作・キットパスを使った絵画講座

◆母親支援として「障害者の18歳からの暮らし 母親講座」を企画・開催

2月21日開催 参加者20名

◆余暇活動支援者連絡会 5月20日・7月15日・9月17日・11月19日・3月3日出席

役割分担

■ 行政の主な役割

- ・余暇活動支援者連絡会での各種提案・現状の情報提供などを通じた連携
- ・余暇支援活動に関する各種講座内容への提案（市民から寄せられている課題の集約）
- ・事業活動の広報活動（市政だより・チラシやポスター配布・関係施設への活動案内・区の担当者との調整）

■ 団体の主な役割

- ・余暇支援活動に関する各種講座の企画・実施。余暇活動支援者連絡会への参加・報告・提案

事業費とその主な内容

■ 事業費 834,843円（うち補助金額 578,000円）

通信運搬費（郵便代）、印刷製本費（チラシ・ポスター代）、消耗品・材料費（講座材料代）、報償費（講師・看護師・保育士代）、備品代（講座備品代）

協働による成果

余暇活動支援者連絡会にて提案し、ボランティア協会と余暇活動団体、障害福祉課の連携で事業を実施したことで、予測からではなく現場や市民の声から事業を組み立てることができた。ボランティア養成講座は入門講座から行うことで、学生参加も多くみられた。若い世代への人材を求める声があったことへの成果もあった。ボランティア協会がボランティアのサポートをしてくれるためボランティア協会への登録を促し、新しい支援者が生まれた。

余暇支援活動事業では、ボランティア養成講座の流れを受けて参加者が、安心して余暇支援活動や人との関わりを持つことができた。様々な特性のある障害児の保護者から喜びの声がアンケート結果に寄せられた。

プログラムを充実させ、障害児の新しい取り組みが見られた。また、「子どもの志向の気づきになった」など、参加者より子どもの健全な心身の発達と新しい才能の目を見ることができ、保護者の心の安定や希望にもつながる事業になったことが分かった。

保護者向けの「障害者の18歳からの暮らし」は親だけでなく、支援施設職員の参加や障害者（当事者）の参加もあった。子供の将来に不安をもつ親からは、溝野先生の取り組む姿勢や利用者さんとの具体的な関わり方などを聞いて、安心したという声が多かった。施設選択に際しての「選択の基準」に不安を持つ保護者も多いこともわかり、事前にこのような講座で内容を知ることの大切さを感じた。

事業報告は、余暇活動支援者連絡会でも行い、事業の組み立てだけでなく成果も共有できたことが良かった。



担当課の声（反省点・苦労した点）

■ 行政としてできること・できないことの共有や、お互いの考え方や持っているビジョンのすり合わせに苦労した。綿密に協議を重ね、何度も確認しあうことの重要さを改めて認識した。今回の事業を踏まえ、余暇活動を継続して支援する取組みが必要だと感じる。

提案団体の声（反省点・苦労した点）

■ 余暇支援の担当が協働事業後に変更となり、担当者とのつながりを採択後から構築する必要があった。想いや考えを共有するための時間を前半に多く費やしたが、齟齬の無いように一つ一つ確かめながらの事業開催となり丁寧に取り組めた。またその関係性が次へのアプローチに進む際、お互いの意見を尊重することになり、次来年度につながる大きな成果と言える。